

研究大会当日(続続)

2018/11/6

カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究発表会ですが、午前中に2小学校で行った授業公開では、田原小学校に60名、宇治田原小学校に49名の参加者がありました。午後からの全体研究会からの参加者を合わせると総計220名参加の研究大会となりました。文部科学省の委託事業とはいえ、宇治田原町単独の開催には大変多くの方々にお集まりいただいたものと感謝いたしております。また、一般参加として地域のみなさんにも来ていただきました。本当にありがとうございました。

2会場での公開でしたので、人があふれかえるという感じではなかったのですが、見慣れない人々が教室に入ってこられたので、子どもたちはドキドキしたことでしょうが、みんなよくがんばりました。



←田原小学校



←宇治田原小学校

3時間目とモジュール授業を公開したクラスと、モジュール授業と4時間目の授業を公開したクラスの2とおりを作りました。これは、通常の授業からモジュール授業へどうつながるか、モジュール授業から次の授業にどう移っていくかを見ていただきたかったからです。この写真は田原小学校5年ですが、3時間目の多目的室2での外国語活動の授業を終えて、自分たちの教室でのモジュール授業となりました。スムーズな移動ですと10分間授業に入ることができました。

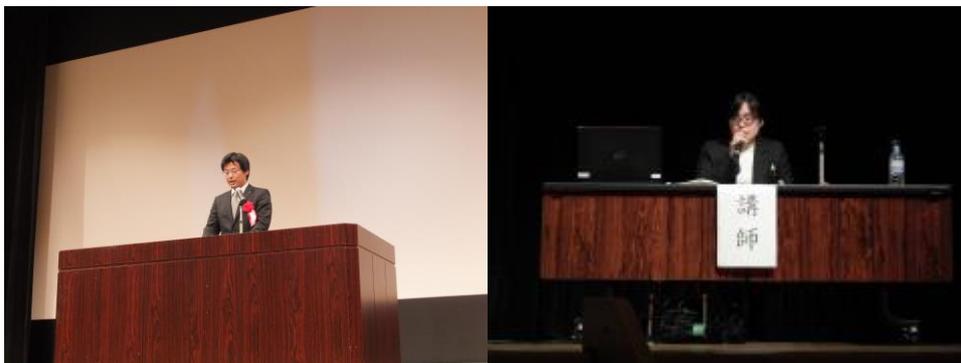


全体研究会では開会行事の後、研究発表を行いました。以前にもお伝えしたのですが、本校の夜久先生と宇治田原小の杉浦先生が発表しました。研究の目的や経過、モジュール授業のメリットや実施上の注意点などについてきめ細かく話しました。



研究発表に対して、山城教育局の友久指導主事が指導講評をしてくださいました。ご好評いただきありがとうございました。その後、文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室の山本審議調整係長の講演となりました。カリキュラム・マネジメントの現状等についての話をいただきました。このようにして研究発表会は幕を閉じたわけですが、研究実践はこれからが本番です。子どもたちとともに、よりよいものを求めて進めていき

たいと考えています。



研究大会当日(続)

2018/11/5

研究発表会の速報は金曜日にお伝えしましたが、もう少し詳しく振り返りたいと思います。まずは、研究大会を支えてくださった方々についてですが、この大会では大変多くの方々のお世話になりました。宇治田原町教育委員会の職員のみなさんはもとより、町役場の職員の方々やPTA役員のみなさんにお手伝いいただいたわけです。PTAのみなさんも町職員の方々も本来の仕事を置いて協力していただきました。本当にありがとうございました。

田原小学校では維孝館門、宇治田原小では正門にも研究発表会の立て看板が立ちました。子どもたちも看板を見て通りましたが、彼らの気持ちもそれぞれに高まっていったようです。



田原小学校では、国道 307 号にも銘城台付近から禅定寺に向かう T 字路まで、宇治田原小学校では、国道 307 号と禅定寺からの T 字路、丸山の信号など多くの方に立っていただいています。また、入ってくる車両は少ないのですが、旧の国道沿いにも案内のため立っていただく人もいました。同時に校内では受付業務や接待をお引き受けいただいた役員さんもおられました。



これは昼からの写真ですが、全体会場を町の総合文化センターにしたのでこちらにも町職員の方にお世話いただきました。スムーズに研究会が進行できたのもみなさんのおかげです。感謝申し上げます。



研究大会(午前中)公開授業

2018/11/2

晴天のもと、研究大会が始まりました。午前中は、公開授業で、国語、道徳、外国語・・・そしてモジュール授業を参観していただきました。

子どもたちは、少し緊張ぎみでしたが、徐々にほぐれてきたようでした。



研究発表会前日準備！準備万端整えて・・・。

2018/11/1

カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究発表会が、いよいよ明日に迫ってきました。2小学校では、授業準備はもちろん、受付や昼食会場の準備に追われています。また、全体研究会を行う宇治田原町総合文化センターでも舞台や座席の準備を行いました。数多くの参加者を迎え、いよいよ「宇治田原スタイル」のお披露目となります。年間 35 時間授業時間を増やすのに「子どもの負担をできるだけ少なくすること」を第一に考えた授業プランです。京都府下だけでなく、全国に広がればと願っています。

総合文化センターさざんかホールの前に立てかけられた看板です。いよいよ大会の日がやってきます。



午前の宇治田原小学校会場と田原小学校会場から参加される方と、午後の全体研究会から参加される方がるので、受け付けを3つ作ることにしました。



さざんかホールの定員は 400 名ですが、参加者は 200 名程度です。少し大きい会場となりましたが、参加者の熱い思いで熱気あふれる大会にしたいと思います。



全体会場で研究発表を行う宇治田原小の杉浦先生と田原小の夜久先生です。入念なチェックを行っていました。授業をする担任の先生に負けず劣らずがんばって欲しいものです。



全体研究会場打ち合わせ

2018/10/11

11月2日の研究発表会は、午前中に宇治田原小学校と田原小学校の2会場で授業公開を行い、昼食休憩を挟んで、距離的にちょうど中央部にある宇治田原町総合文化センターで全体研究会を行います。昨日、舞台設営業者との打ち合わせを行いました。舞台の動きを想定しての話し合いでしたが、研究発表会間近でいよいよ臨戦態勢に入っていく緊張を感じる時間となりました。

教育委員会の指導主事を交えての指定業者との打ち合わせでした。



第2回検討会議

2018/10/9

10月5日（金）、本校において本年度第2回目のカリキュラム・マネジメント検討会議を行いました。研究発表会を1ヶ月後に控えて、準備の進捗状況や当日の進行等について協議しました。また、今後の研究の在り方についても話し合った後、本校のモジュール授業の様子を参観していただきました。直近の研究発表会については、検討会議の委員も大きな期待を寄せていただいているところです。当該校の校長として責任重大ですが、各校教職員と力を合わせて素晴らしい研究発表会を創り上げたいと思っています。

本校の子どもたちも宇治田原スタイルに慣れて、意欲的に学びを深めています。指導にもアレンジを加えるなど工夫を重ねています。



活発に協議も進みました。研究大会間近の緊張感がいよいよ増してきました。



朝日新聞をご覧ください！宇治田原町の教育の特集が・・・！

2018/9/5

昨日4日（火）の朝日新聞の朝刊ですが、教育に関する特集記事に宇治田原町が進めている「モジュール授業」のことが掲載されています。朝日新聞の編集委員の方から取材を受けたことは6月20日付けでお知らせしていましたが、他の地域の取材内容との調整や文章の校正等の期間を経て、いよいよ記事になりました。この記事のおかげで、本町の子どもたちのがんばりや「宇治田原スタイル」のよさが全国に広まるのではないかと期待しています。昨日のことで新聞が手に入らないかもしれませんが、是非ご一読いただければ幸いです。



研究発表会第二次案内

2018/9/3

「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究発表会」を11月2日(金)に宇治田原町で開催しますが、このたび発表会の第二次案内ができました。さっそく、府内各小学校及び、本町の研究にご指導、ご助言いただいた各機関に案内状を送らせていただきました。是非多数のご参加をお待ち申し上げております。また、本ホームページにも開催要項を掲載しておりますので、開催要項をダウンロードしていただくとともに、田原小学校のホームページにて参加フォームでの申込みをお願いします。

(田原小 <http://www.kyoto-be.ne.jp/tawara-es/cms/>)

2学期に入って、モジュール授業はBパターン（3・4校時の間の枠）での授業を実施し検証しております。1学期のAパターンに慣れた子どもたちで少し戸惑っているようですが、どちらが学びやすいか体感させたいと考えています。



研究指定校の銘板を掲げる！

2018/7/19

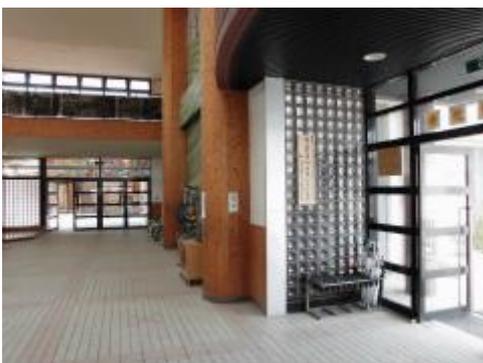
研究指定を受けている学校を訪問すると玄関先に銘板がかけられていることがよくあります。銘板は木製で、指定を受けた研究名が毛筆で書かれているのが一般的です。本町2校でも文部科学省からの研究指定を受けて研究を行っているということで、子どもたちに知らせるとともに、町民のみなさんや学校を訪問された方にもご承知おきいただくために銘板を作成し掲げることにしました。檜材の中でも無地（節のないもの）を選び製材してもらい、西谷町長に揮毫していただき完成したわけです。西谷町長直筆ということで、町をあげて応援していただいていることに深く感謝いたしております。宇治田原小学校では玄関を入った右手に掲げておりますので、来校の折には是非ご覧いただきたいと思います。

幅 25 c m、縦 90 c m、厚さ 3 c mの材に書いていただきました。木の大きさの割りに字数がとても多く、また、木地はにじむので書きにくかったと深く反省しています。西谷町長、大変申し訳ありません。でも素敵な銘板が出来上がりました。ありがとうございます。



田原小学校と同じですが、この研究は創立 145 年の学校の歴史の中でも大きなトピックスの一つです。その場において子どもたちのための研究に携われるということは大変光栄なことだと考えています。銘板完成を励みに、今後、さらに研究の精度を高めるようがんばっていきたいと思います。

田原小学校の銘板 ↓



カリキュラム・マネジメントに係る合同研修会 I

2018/7/13

6月27日に田原小学校と宇治田原小学校の教員が本年度2回目の合同研修会を行いました。今回は新出漢字の指導方法「宇治田原スタンダード」の有り様について協議する会議の設定でした。今回は、このカリキュラム・マネジメント研究の3本柱(カリキュラム・マネジメントの研究、漢字や文法を中心とした国語の指導方法の研究、外国語の指導方法の研究の3本)の一つ、国語の指導に関する講演会となりました。

講師には、京都府総合教育センターの伴研究主事兼指導主事に来ていただきました。伴先生はお若いのですが、国語教育に関する造詣は深く、「なるほど」とうなずかされる深いお話を聞かせていただくことができました。

講演の前に伴先生にも本町の研究について理解していただきたいと考え、新出漢字の指導の模擬授業を行いました。指導者は、宇治田原小学校の薄出先生です。



始めに伴先生は「ひよっこりひょうたん島」を例にして話されました。「50年ほど前の子どもたちは、結構むずかしい言葉が飛び交う言語環境の中で生活していて、その中で難解な言葉も理解できる能力を身に付けてきた。子どもの育ちは環境に大きく左右される。」という話をされました。「なるほどそうだったなあ・・・。」と感じた次第です。



「国語の教材は、取り上げ方によって子どもたちがつかむものは大きく異なる。だから多角的な視点に立つ教材研究が大切だ。」と訴えられました。教材に限らず、物事は一方向から見るだけでなくいろいろな立場

や方向から見て考えることが重要ですね。ためになる講演でした。



平成 30 年度第 1 回検討会議開催！

2018/7/2

カリキュラム・マネジメント研究を推進するに当たっていくつかの会議設定がなされているのですが、その一つに「**検討会議**」があります。大学の先生や学識経験者、山城教育局の指導主事、行政関係者等からなる「**検討会議**」は、**本研究の進み具合を確認し今後の方向性を定める重要な会議**です。

6月27日の水曜日のことですが、平成30年度第1回検討会議を開催しました。本年度は、教育委員会の機構改革がなされ、また、田原小学校と宇治田原小学校の両校が揃って文部科学省の研究指定を受けたということで、検討会議の構成員も大きく変わりました。2月26日以来

の会議ということで、4月10日から実際に始めているモジュール授業を見ていただいた上での検討会議となりました。

今回は、田原小学校のモジュール授業を見ていただきました。水泳学習のため時間帯を変えて実施している学年があったり、習熟のためにテストをしているクラスがあったりする中で、3年のモジュール授業を中心に見ていただきました。



多くのギャラリーに見つめられて、田原小学校の松坂先生も子どもたちもかなり緊張したことと思います。



参観後、校長室にてこれまでの研究の進捗状況について報告しました。

文部科学省で研究発表してきたことやその時の出会いで朝日新聞の編集委員から取材を受けたことなど報告がありました。



これからの研究の進め方についても提案をしました。**11月2日に行う**
予定の研究発表会についても協議していただきました。これから京都府
の小学校を中心に研究会の案内状を送り参加者を募ります。本町の研
究について、多くの方々に理解を深めていただければと思います。



朝日新聞社の取材！

2018/6/20

5月に文部科学省で、本町の研究について発表してきたことはすでにお伝えしたところですが、その際、朝日新聞東京本社編集局社会部教育班の方から取材を受けたこともお知らせしたと思います。その時、実際に宇治田原町に行って子どもがモジュール授業を受けているところを取材したいというお話を受けていました。このことについて5月の終わりに正式な申し出があり、6月18日（月）に田原小学校で取材を受けることになりました。当日は、東京に出張した4名（町教委の馬場指導主事、田原小の森下校長、本校の夜久教務主任と本校校長の私）で取材対応する予定でしたが、朝の地震発生により私、池尻は安全管理のため学校待機としたため、取材には応じる事ができませんでした。田原小学校での取材内容等は以下のような内容でした。

「地震騒動で大変なところ申し訳ありません」と恐縮しながら編集委員の氏岡さんが来校されたのですが、9時からの授業参観を皮切りに児童へのインタビューなど取材が続き、帰京の途に就かれたの

は午後1時半を回っていました。熱心な取材に緊張しつつも、本町の研究について十二分にお伝えできたことに満足しています。

まずは、1時間目の途中からモジュール授業の前半にかけて5年の教室の様子を見ていただきました。子どもたちが熱心に漢字の指導を受けている様子をカメラに収めておられました。



続いて4年の教室に移動しての取材です。モジュール授業後半から2時間目の授業への「つなぎ」について見ていただきました。4年生の児童はお客さんが来られてとてもうれしそうに授業を受けていました



中間休みには、6年の本部役員4名にインタビューです。モジュール授業を受けて感じていることや考えていることについて子どもたちに質問されました。彼らがしっかり、そしてハキハキと答えている様子や6年の児童が低学年の子たちのことを思いやって話す姿に感心しておられました。私たちにとって子どもたちがよい評価を受けたことは最高の喜びですね。



「宇治田原スタンダード」（モジュール授業の方法）を考案した際の配慮した点や工夫について聞いていただきました。子どもに無理をさせず、授業の効果を上げるこの「宇治田原スタンダード」のよさについてお伝えできたことと思います。この取材が実って記事となり全国発信していただけたら、本町の研究に一層弾みが付くものと思います。氏岡さん、遠路はるばるお運びいただきお疲れ様でした。私たちにとってもよい経験となりました。



文部科学省で研究発表

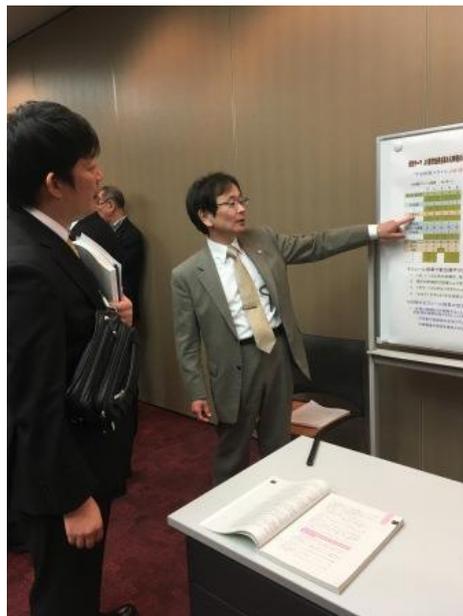
文部科学省主催「アクティブ・ラーニング&カリキュラム・マネジメントサミット 2018」

2018/05/16

5月9日と10日の両日、宇治田原町教育委員会の馬場指導主事と池尻宇治田原小学校長、森下田原小学校長、夜久田原小学校教務主任の4名で、文部科学省主催「アクティブ・ラーニング&カリキュラム・マネジメントサミット 2018」に参加してきました。これは、カリキュラム・マネジメント調査研究の進捗状況について研究発表するためです。東京都千代田区一ツ橋にある「学術総合センター」で行われたこのサミットは、文部科学省初等中等教育局教育課程課の淵上 孝課長の趣旨説明から始まり、千葉大学特任教授である天笠 茂先生の基調講演と続きました。その後、各地のカリキュラム・マネジメント調査研究の発表となったわけです。宇治田原町も2番目の発表で、プレゼンテーションを行いました。研究発表の後、いくつか質問があり応答したのですが、何とか本町の研究のよ

さについて伝えられたのではないかと思います。

2日目は、各地がそれぞれにブースを作って「サテライトセッション」を行いました。本町のコーナーにも多くの方が質問に来られたのですが、その中に朝日新聞東京本社編集局社会部教育班の編集委員の方がおられました。この方も「宇治田原スタイル」にとっても興味を持っていただき、数多くの質問をしてくださいました。そして、年間 35 時間を生み出すこの方法のよさに感心していただき、最後に「是非、宇治田原町に取材に行かせてください。」という申し出をいただきました。反響の大きさに驚くとともに、「宇治田原スタイル」に対する自信をさらに深めたわけです。とても満足な思いで、帰りの新幹線に乗り込むことができました。



サテライトセッションの様子です。多くの関心が寄せられ、「宇治

田原スタイル」について全国に発信することができました。

モジュール授業開始

2018/05/10

平成 30 年度が明け、4 月 10 日から宇治田原町立小学校ではいよいよモジュール授業が始まりました!

今年の時程表では、少し長かった掃除の時間(15 分を 10 分に)や中間休み (20 分の昼休みに合わせて、25 分を 20 分に) を縮め、一日、10 分間の時間を生み出しました。そして、その時間を活用して新出漢字の指導を行います。この方法で、これまで各学級に任されてきた新出漢字の指導を全校一斉、同じ方法で行うことができるようになりました。併せて、1・2年生もモジュール授業を行うことによって、本年度から 45 分の授業枠を週あたり一つ減らすようにしました。2年生はこれまで金曜日が 6 時間授業でしたが 5 時間授業に、1年生は月曜日が 5 時間授業から 4 時間授業となりました。

(1年生は給食を食べてすぐに下校して腹痛等を起こしてはいけ

ないので、昼休みを過ごし清掃をして健康状況を見てからの下校となります。)

是非、ご家庭で、学校で行っている漢字指導についての子どもたちの感想を聞いていただければと思います。

新出漢字の指導は、電子黒板内の「デジタル教科書」で指導します。



これは「空書き（そらがき）」といって空中で漢字を書いて、書き順や字形を覚える学習方法です。



1文字1枚の学習プリントを使って習熟を図ります。左側には確認テストも付いています。このプリントはファイリングして保存していきます。



なぜ今、カリキュラム・マネジメント研究なのか?Ⅲ

2018/01/10

年末に「3年以上の学年で年間 35 時間増 (週にすると 45 分間増)」
に対応する画期的な方法、子どもたちに無理強いをしない理想的な
方法を、宇治田原町では考案しました。その方法は……。という
ところで止まっていたのですが、

それは、

45分を5つに分割する方法

45分間を5つに割って「9分」ずつ、月曜から金曜まで分割して
とる方法です。(ただし、「9分」というのは子どもたちにとって中
途半端な時間となりますので、実際は45分間に5分間を足して50
分とし、5つに割って10分ずつの時間とします。)

10 分間の授業を毎日行うことで生活リズムを整える！

例えば、毎日 2 校時の始めに 10 分間ずつの学習時間を設定（10 分間モジュール授業）し実施することで、子どもたちの生活リズムが安定します。安定した生活を送ることで、子どもたちの心も落ち着いてきます。

10 分間モジュール枠を使って、国語科の「漢字指導」や「文法についての学習」を！

10 分間のモジュール枠は、学年で一番時間数の多い国語科の学習、特に指導時間が確定していない「新出漢字」の指導を中心に漢字の習得学習や文法指導などを行おうと思っています。

小学校の先生の多くが、「新出漢字」の指導を単元の始めにその単元に出てくる漢字すべてを 1 時間使って指導しているのではないかと思います。これは、子どもたちにとってはかなりの苦痛を感じる「学び」となります。「食」に例えるなら、食べ物を飲み込んでいないのに、どんどん口に詰め込んでいくようなもの。消化不良を起こしてしまいます。

ところが、中には、国語の時間の始めの時間を漢字指導に割いて、

1日1字か2字と時数制限をして指導し、その日のうちにドリルなどで習熟を図っておられる方もおられるのです。この方法ならば、子どもたちも1日に覚えなければならない字数も少なく、あまり無理を感じないと思われれます。

でも、計画的に時間を生み出していくことは、なかなかむずかしいものです。ましてや例えば10分と時間を決めてもオーバーしてしまいがちになります。

そこで、モジュール学習枠で一斉に学習を行えば、学級ごとに設定する必要がなくなり計画的で効果的な運用が可能となるのです。

なぜ今、カリキュラム・マネジメント研究なのか? II

2017/12/28

新しい小学校学習指導要領実施のためには、3年以上の学年で年間35時間の時間の確保が必要です。そのためには、いくつかの方法が考えられます。

1 長期休業を短縮する方法

例えば、夏季休業を平日7日間ほど短縮することにより35時間

確保することができます。しかし、教室での冷房は完備しているものの登下校時の暑さ対策が必要ですし、長期休業期に大きく成長する児童の心身のこと、そして児童の気力面、体力面から考えても課題が多いと思われます。また、春季休業や冬季休業では期間が短く、夏季休業でしか短縮することはできません。

2 4年以上の学年に7校時授業設定する方法

3年に6校時授業を1回増やし、4年以上7校時授業日を週1回作ると、計算上は35時間増やすことができます。しかし、中学生でも通常7校時授業を行っていないのに、児童の気力面、体力面から考えても無理があると考えます。

3 3年以上の学年に水曜日6校時授業を行う方法

水曜日の午後には、子どもたちの放課後の生活が確立しています。日頃充分に取れない友達との交流や遊び、習い事、塾などなど。すでに子どもたちのスケジュールが決まっている中で、水曜日の下校時刻を遅くさせるのは社会的混乱を招く恐れがあります。

4 45分間を3つに区切って15分単位授業を設定する方法

小学校では1単位時間を基本的に45分と定めている学校が多く

見られます。その 45 分を分割して授業する方法をモジュール授業と呼んでいます。この方法では週 3 回 15 分単位の授業を行うわけですから。残りの 2 日と時程に変化が生じます。小さい子どものことですから、この時程の変化によって子どもたちの生活リズムに狂いが生じかねないのが現状です。

どの方法も本町の児童にとって最善とは思えない中、私たちは子どもたちに無理をさせずに授業時数を増やし、さらに教育効果を高める画期的な方法を考案しました。

なぜ今、カリキュラム・マネジメント研究なのか? I

2017/12/27

このコーナーは本日からアップを開始いたします。本コーナーは、「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」という名前の部屋です。

「カリキュラム・マネジメント」という言葉は聞き慣れない言葉ですが、私たち教育関係者も数年前まではあまり耳にしたことのない言葉でした。諸説様々ですが、私たちが教えを受けている京都教

育大学の樋口准教授の説を簡略に申し上げますと、

教育効果を上げるために、教育の活動内容をどのように工夫して組み立てていくか。

ということに尽きるようです。

この度、小学校教育の規範である「小学校学習指導要領」が改訂されました。平成 32 年度から全面実施となるのですが、今回の改訂の目玉は「道徳の教科化」と「英語科の新設と外国語活動の拡充」の 2 つです。道徳の教科化についてですが、教科になることによって成績を付けることになるので、このことについては現在本町でも研究中です。しかし道徳そのものの実施については、これまでも年間 35 時間きちんと授業を行っていたので大騒ぎしなければならないかというところでもありません。

問題は、「英語科の新設と外国語活動の拡充」の方です。学習や活動内容もさることながら、3 年生以上の学年に週 1 時間、年間 35 時間の授業時間を増やさなければならなくなったのです。

4～6 年生ならば、水曜日の 5 校時授業を除く他の 4 日間はすべて 6 時間授業で、今でも窮屈な時間割なのです。1 時間増やすのは、

簡単にはいかないのです。

そこで目を付けたのが、

宇治田原町で行っている

「カリキュラム・マネジメント」

研究です。

年間 35 時間増に対応するために、「どのような時間割を組み立てるか。」「子どもたちに無理なく授業を行い、教育効果を上げるにはどうすればよいか」について研究しているのです。くわしくは、次回以降お伝えします